令和5年度

学校評価表

(中間評価 · 最終評価)

東広島市立高屋中学校

東広島教育の基本理念である。「『夢と志』をもち、グローバル社会をたくましく生きる人材の育成」の 経営理念 もと、生徒の希望する進路・将来の夢の実現に向け、新たな教育課題に対応し、これからの社会に出 学校教育目標 土台を築き 夢の実現 て活躍するために必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成をめざす。

評価計画								自己評価					学校関係者評価	改善方策
項	重	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	=a./ac	红 田	評価	77.4	理師の八七し北美士英
目	点						10月	2月	達队度	評価	結 果	評価	コメント	課題の分析と改善方策
確かな学力豊かな心・健やかな体		〇自ら考える自律した学 習のできる生徒の育成	〇学習意欲の向上と 基礎学力の定着	〇授業の振り返りによる自 己評価	〇各学力調査	全国 平均 以上	76.6%	75.0%	75.0%	2	1年生習熟度テストの結果(平均点)[本校/全国] [国語56.5/508.社会55.1/55.8数学57.4/56.5理 科55.9/52.英語54.4/53.8] 2年生習熟度テストの結果(平均点)[本校/全国] [国語56.8/48.5 社会52.2/48.2 数学56.1/49.5理 科49.2/51.0 英語50.1/45.8] 3年生習熟度テストの結果(平均点)[本校/全国] [国語48.1/45.社会41.5/46.数学47.7/43.理科 55.5/55.英語48.9/59]	В	・どのクラスも落ち着いた雰囲気で学習できていました。 ・生徒自身が振り返ることが重要だ と思います。 ・ICTを上手く使いながら、引き続き 生徒に協働的な活動を仕組んでくだ さい。 ・英語が低くなった要因と対策をお 願いします。	生徒に授業の振り返りをさせ、 授業で学んだことや疑問に思っ たことなどをまとめさせている。 今後は、その振り返りを次の授 業へ繋げさせて、より意欲的に 学習させる。
	2		○情報活用能力の育 成と個別最適な学び	OICT機器を効果的に活用 した授業づくり	〇授業がよくわかる	90%	86.8%	84.9%	94.3%	3	各教科で「授業がよく分かります」に肯定的な回答をした生徒の平均の割合は84.9%(前期86.8%)であった。	Α	・授業がよくわかるという84%を 更に向上させてください。	ICT機器の効果的活用を進めながら、授業のめあてと振り返りを 生徒にリンクさせる。
			〇思考力・判断力・表 現力の育成	〇自己表現活動や学び合 い活動	〇わかりやすく説明や発 表	80%	75.3%	73.3%	91.6%	3	「授業では相手にわかりやすく説明や発表をしています」に肯定的な回答をした生徒の平均の割合は62.1%(前期65.8%)であった。	Α	・自分の考えていることを、まとめて発表 することは難しい。今後も続けてほしい。 ・人との関わり合いをしっかり継続しても らいたい。	ペアやグループ活動で、自分の考えを発表・説明させている。説明内容に肯定的な評価を教員、生徒同士でする機会を増やしていく。
			○探究的な学習の充 実	〇本質的な問いによる授 業改善	〇研究授業	年1人 1回以 上	100%	100%	100%	3	6月(理科、家庭、英語)、7月(国語、社会、 数学、音楽)、9月(社会、英語、美術、国語、 技術)、10月(保健体育、理科、数学)、11月 (保健体育)と計画的に進めた。	Α	要である。	引き続き、本質的な問いによる 授業改善を行い、個々の授業力 を高めていく。
		〇基本的生活習慣の定 着と豊かな人間性・社会 性の育成	○積極的生徒指導の 推進	〇高屋中「生活四訓」の徹 底	○規則正しい生活をして いる	90%	82.8%	82.8%	92.0%	3	「早寝早起きをして規則正しい生活をしています」に肯定的な回答をした生徒の平均の割合は81.8%(前期80.9%)であった。	Α	機会をみつけては、ネットやSNS の危険性について啓発すること が必要。	高中スマイルチャレンジの取組など を通して、生徒、保護者にネット・ ゲームの適切な使用について指導・ 啓発していく。
	1		〇不登校生徒への支援の充実と未然防止	〇未来ルームの経営と教育相談の充実	〇不登校生徒	20人 以下	30人	38人	52.6%	1	1月末の段階での段階で、欠席日数30 日越の不登校生徒数は38人(9月末30 人)であった。	В	ものか。 ・保護者との連携を続けてほしい。	将来の社会的自立に向けた支援・指導を保護者と連携して継 続的に進める。
			○異学年集団での協 働活動の推進	○学校行事·生徒会活動· 部活動の工夫	〇自己肯定感	80%	72.1%	73.5%	91.9%	3	「自分にはよいところがあります」に肯定 的な回答をした生徒の平均の割合は 80.3%(前期80.9%)であった。	Α	目分の良いところを知るためにも、他の人が しっかりほめてあげることが大切である。・教室や廊下に、自分を表現する仕掛けがあって よい。・自己肯定感が高く維持されるよう努めてください。	縦割り掃除など、異年齢集団での 取組を振り返り、よりよいものに改 善する。
			〇キャリア教育の推 進	〇読書活動の推進	○本を読むのが好きです	80%	66.7%	64.4%	80.5%	2	「本を読むことが好きです」に肯定的な 回答をした生徒の平均の割合は64.4% (前期66.7%)であった。	В	・細やかな情報発信がなされている。 ・ICTを使った読書も推進してみては?	授業に加え、生徒会活動を活用 するなどして、本がより身近に感 じられるような取組を進める。
信頼される学校		〇周りの人に感謝し地域 に貢献できる生徒の育成	○地域貢献活動の推 進	〇ボランティア活動への参加	〇自己有用感	80%	75.5%	75.6%	94.5%	3	「自分は人の役に立っています」に肯定的な回答をした生徒の割合は75.6%(前期75.5%)であった。	Α	よく分析されている。・成功体験が積めるような取組を工夫してもらいたい。・縦割り行事を継続してほしい。	異学年で取り組む活動を意図的 に仕組み、地域貢献活動を充実 させる。
	3		〇小中連携	〇定期的小中連携連絡会の 実施	〇年実施	5回以 上	100%	100%	100%	3	6月(2回)、9月、12月、3月に計画的に 実施している。	Α	・小・中の連携はとても大切で す。よく連携がとれています。	引き続き、計画的に進めていく。
	٥		〇保護者・地域への 情報発信	〇通信の発行及びHPの更新	○学校の様子がよく分か ります	95%	88.6%	89.6%	94.3%	3	「学校の様子がよくわかります」に肯定 的な回答をした保護者の割合は88.9% (前期87.9%)であった。	Α	・細やかな情報発信がなされている。大志坂の効果。	引き続き大志坂や学年通信等を発行し、タイムリーに情報を発信 していく。
			○働き方改革の推進	○整理整頓, 期限厳守, 業務 の明確化等	〇超過勤務月平均	45h以 下	86.5%	93.8%	93.8%	3	4月~1月までの超過勤務月平均時間 は、48時間であった。(4月~9月は52時間)	Α	・意識が高まっているのは良いこと。 ・先生方が働きやすい環境の整備 をお願いします。	引き続き業務改善を進め勤務時間外在校時間の削減に努めていく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

- 4...目標を上回って達成 (95≦達成度)
- 2...目標をやや下回っている 1...目標をかなり下回っている (75≦達成度<85)
- 3...目標どおりに達成 (85≦達成度<95)
 - (達成度<75)

■学校関係者評価

A…とても適切である C…あまり適切でない

- B...概ね適切である D...全く適切でない
- (N...判定できない)